

北代縄文通信

北代縄文考古楽講座を開講しています

北代遺跡の発見から110年目となる今年、史跡北代遺跡の新たな魅力の発見に向け、富山市埋蔵文化財センター学芸員や富山市科学博物館南部専門官^{なんぶ}を講師として、北代縄文考古楽講座を開講しています。受講生にとって考古学を楽しむ講座となることを目指して、「考古学」ではなく、「考古楽」という字をあてました。また、気楽に受講できるよう、受講料は無料としました。

歴史系の講座は、講師による講義の後で若干の質疑応答をまとめて行うことが一般的です。ただ、専門的な内容の講義をすべて理解することは容易でなく、途中でわからなくなったまま聴講しても理解が不十分に終わってしまう可能性が高まります。それを避けるため、北代縄文考古楽講座では疑問点等が生じたその都度、質疑応答を行うこととしました。受講生と講師、受講生間でいつでも気楽に自身の意見を述べ合う双方向の関係を重視し、地域に根ざした生涯学習を能動的に取り組む機会を設けることを意図したものです。このような学習方法を採用することによって、受講生が諸学問に親しみ、楽しむきっかけになることを願っています。

今年度は第3回講座までに、地域の歴史復元に不可欠な古気候や古地形に関する自然科学の最新の研究動向の紹介から始め、遺跡から出土した動物の骨とおして縄文人の生業^{なりわい}を探りました。第3回講座では、現生のハンドウイルカの骨格標本の組立を体験したり、富山市小竹貝塚から出土した縄文時代のカマ



第1回「北代縄文考古楽講座への誘い^{いざな}」



第2回「気候変動と縄文人」



ゲスト（富山市科学博物館太田副館長）との質疑応答



第3回「動物と縄文人」



南部専門官による現生イルカ標本解説



野外学習（地形観察）

イルカの骨を骨格標本と比較したりと、普段の講座では体験することができない貴重な体験をとおして、縄文人と動物の関わりについても思いを馳せることができました。来る12月16日の第4回講座では、とやまの弥生人が寒冷多雨等の気候変動にどのように対応したのかを紹介し、これからの環境問題について考えるきっかけにしたいと思います。お気軽にご参加ください（申込不要）。

ワークショップ「石器石材の特性を知ろう！」を開催しました

北代縄文館では6月6日から12月17日まで、ミニ企画展「とやまの石器研究最前線！」を開催しています。遺跡から出土した石器の石材を肉眼観察のみで同定することは、容易ではありません。石器石材の岩石学的検討の重要性は考古学研究でも高まっており、本展では近年普及しつつある携行型蛍光エックス線分析装置を核として、補



石器石材の特徴を解説する増淵主任学芸員

足的に走査型電子顕微鏡も用いた最新の石器石材研究を紹介しています。

関連行事として、富山市科学博物館増^{ますぶち}淵主任学芸員をお招きして、8月26日にワークショップ“石器石材の特性を知ろう！”を開催しました。石器に用いられた石材を叩きながらその特徴を解説いただき、参加者は割った破片を手にとって観察して理解を深めることができました。縄文人は、「切る・削る」「たたく」「すりつぶす」「装飾品」といった用途に応じて石器石材を選択していたと考えられることを示されました。また、展示室では史跡北代遺跡出土石器に関する個別解説もあり、石器石材について楽しく学ぶことができました。

夏休みイベント“みんなで縄文時代を学ぼう”を開催しました

悠久の森 2017 連携事業を兼ねたイベントとして、縄文広場ボランティアが制作した手づくり紙芝居を見たり、縄文時代の遺跡から出土した石器や土器の実物を触ったり、模造石斧を用いて樹木伐採の擬似体験やオリジナルの縄文土器づくりなどをおして、みんなで縄文時代を学びました。

模造石斧は思いのほか重く、適切な角度で打撃することによって、その重量が樹木に伝えられ、徐々に抉^{えぐ}れていくことを体感できました。



手づくり紙芝居で縄文時代を学ぶ



“縄文服”を着て、樹木伐採の擬似体験



縄文土器づくり



本物の縄文土器を観察しながら文様づけ体験

中学生が竪穴住居を補修しました

「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」

市内では、中学校2年生が一週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することで規範意識や社会性を高め、将来の生き方を考えるなど、成長期の諸課題を乗り越えるたくましい力を身につけることを目的として、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」が行われています。今年も、北代縄文広場で奥田中学校の生徒が6月に、呉羽中学校の生徒が7月に体験活動しました。

北代縄文広場では、平成22年度から7年計画で、竪穴住居・高床倉庫といった6棟の復元建物について、日ごろの維持管理（点検・保守・補修）を適切に行うことを前提とした長寿命化改修を行いました。

「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」では、日ごろの点検の結果、補修を行う必要があると判断されていた部分の補修、日常の保守作業に取り組みました。この他、北代縄文館の清掃等、縄文広場を運営していくうえで必要な作業を行いました。



調査した土間の補修材料を亀裂に充填



赤土屋根表面の崩落部分に屋根土を充填



竪穴住居内に流入した雨水の排出



北代縄文館の展示ケースの清掃

北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第45号：編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター